

道徳「ペットの命を守るために」有効な手段を考えてもらいました。以下、生徒の考えを紹介します。

課題「ペットの命を守るために、何が必要か？あなたの考えを下の枠内に書きます。」

【運営・保護数拡大・保護の質改善】

- 殺処分につながらないペットのための施設を作る。国（県・府・市・町・村）営の保護施設を増やす。殺処分されてしまうであろう犬や猫を使ってふれあい遊園地のアトラクションに活用したり、公園や動物園や、カフェやお店（ユーチューブでかわいいシーンを投稿するなど興味・関心を引く）を開き、ふれあった犬や猫のうち気に入れば、そのまま引き取ってもらう。人も犬も猫も楽しめるし、えさ代も稼げるし、犬や猫もずっと暮らせるし、その売り上げを動物のために使ったり、寄付したりお店と施設を連携したりしたら良い。一時的な施設を作る（地震のときに「どれくらい家に帰れないか分からないから」という理由で送ってきた人を見たので）犬島（山）、猫島（山）のような、野生で生きる（環境を）楽園を作る
- 保育園・学校（ペットを飼う部活動など）・老人介護施設等に貸しだしたり、飼ってもらうことで、両方にメリットがある
- 募金を充実させ、施設の運営費を作る（獣医を増やす等）
- 他国のペット事情を探り、良い施策やアイデアを導入する
- 全国の動物園に少しでもひきとってもらう
- 犬や猫の保護活動をする NPO 法人に助成金を出す
- 広島県の取組（平成 28 年 8 月から犬猫の殺処分数が 0 件、県内の動物愛護センターに收容される犬猫が少ない、收容した犬猫については、元の飼い主へ返還又は一般家庭や団体へ譲渡されている）を全国に知らせる 理由が適切でない場合は、施設での保護を拒否する
- 保護施設から引き取った人の負担を軽減するために、ワクチン代などは、国が負担することで、引き取ってもらいやすくする
- ペットショップ（ペットショップには迷惑だけど）などに、保護された犬や猫を送り、宣伝してもらう
- 飼主が飼い続けることに困っていたりしたら、捨てる前に相談できる体制を作る。
- 犬や猫を守るための活動のための財源（国庫）を作る
- ペット保有税等を作り、本気でペットが欲しい人だけに飼ってもらえるようにする
- ペットフードの購入量に応じて、割引制度を作る（割引分は国から助成する）

【資格】

- 軽い気持ちでペットを欲しいと言わない。本当に飼えるのか考える。飼うには勇気がいる。本当に飼いたいのかどうかについて時間をかけて考えて決断する。ペットを飼うということは、自分に 1 つの命が預けられているという気持ちで大切に育てる。
- ペットを飼う前に講習（ペットを飼う心構え、殺処分の動画を見せる、飼い方についてのプログラム）を義務付け、ペットを最後まで飼うということは、雨が降ったら傘をさすというくらいあたりまえのことだと教育する。ペットを飼う際に、捨てないという契約書（誓約書）を書かせる。
- 飼う時に、その犬や猫を家族として愛していけるかを調べるテストをさせる。
- ペットショップで売るときに本当にその人がペットを飼える家庭なのかどうか（ペットと遊ぶ時間・か買い続ける資金があるか・仕事の転勤がないか・飼い主がどのくらい生きられるか・ペットが大きくなったときのペットとの生活のイメージを持つ等）を見極める
- 飼主は定期的に講習を受ける

【所有】

- すべての猫や犬を飼う時に飼い主の名前・住所・電話番号が記録された位置情報がわかる IC チップを皮膚に移植する（首輪につける）等を義務付ける
- よりよい環境とペットへの愛情
- 所有者の情報をペットショップだけでなく、行政機関が一元管理できるシステムを作る
- ペットの値段を高額にする（ペットを飼うためには、お金も必要だから）

- ペットに対しても、戸籍（人間の子供と同じように手続きをさせる）を作る。
- もし、どうしても手ばなさなければならぬ場合は、その証拠を提示し、役所に申し込む。
- ペットを飼うためのライセンスを設定したり、ペットを飼うことを免許制にしたりする。
- 犬や猫を買っている人や、これから買う人に対して、殺処分の様子を見学してもらう
- 2年（1年）（数ヶ月）に1回、ペットがいるかどうかを点検（持ってこさせる等で）する。
- 飼い主に死ぬまで飼うことを義務付ける。ペットを捨て者に小型犬は罰金 400 万円、大型犬は罰金 600 万円等と法律で罰則を厳しくする（または、条例を制定する）
- 途中で、飼う事を放棄する場合、イギリスのように、自身が殺処分を行うように法整備する。ガスがでる部屋に犬や猫を捨てる人に入ってみてもらう。ガスによる苦しい殺処分ではなく、せめて、苦しまずに安楽死できる方式を採用する。そのための募金を行う。
- 飼っているペットを施設に引き取らせる者は、その施設で一定期間労働の義務を負わせる。施設が引き取る際に、施設に多額を納入させる。ペットを捨てた者は、2度と飼う事ができなくなったり、何年かはペットを飼えない様に法整備したりする。
- 全国で「ペット保護条例」のようなものを作る。衆議院などで、この問題を議論する
- 病院が高額ということで、ペットが病気になっても病院に連れていけないことの改善のために、ペットの定期的な健康診断を法的に義務付ける
- 保護施設を閉鎖する。（最後まで責任を持って飼ってもらうため）
- 飼う前に1ヶ月くらい仮に保護施設の犬や猫を飼わせてみて、本当に捨てないかどうかを判断する
- 本当は、捨てたくないけど、すてないといけないということになったら、代わりに親を責任を持って、自分で探し、預けたらよい

【出生数制御】

- 子供を産む年齢になったら去勢（避妊）手術をするかしないかについて選べるようにアンケートをとる
- 去勢（避妊）手術をすべての県で義務付ける
- 去勢（避妊）手術を税金で行う。

【環境整備】

- ペット可と不可の住居の所有者に対して、差をつける（国や県の助成金の有無、税金の減免等）
- 全ての住宅（賃貸住宅）をペット可とするよう法で義務付ける。
- 飼い主の負担が減るようにすれば、捨てる人も少なくなる
- 県や市が、ペットを捨てることにならないように、補助金や手助けができるようなシステムを作る
- 複数人で一匹を飼うことで、自分に何かあっても、大丈夫なような環境を作る（飼う際に連帯飼主名を届けさせる等）
- 保護犬を引き取ってくれたら少しプレゼントを渡す

【マッチング】

- ペットを飼う希望者には、保護施設で、無料で、犬や猫を譲渡してもらえることを知らせる
- 生き物を買うという考え方を引き取るという考え方に変えていけばいいのではないか。
- ペットをペットショップで購入せず、できるだけ施設で譲渡してもらう。
- 出張（移動）譲渡会を人が集まりそうなところ（ショッピングモールの広場やブース・ペットショップ内等）でイベント的に行うなど、多様な譲渡会を工夫する。
- 譲渡会の回数を増やしたり、譲渡会の宣伝を強化したりする。
- ペットを飼うかどうか迷っている人にある期間飼ってもらい、気に入ったらそのまま買ってもらう
- 保護した猫や犬だけを扱うペットショップを作る
- ネットサイトで保護犬を写真入りで紹介し里親とつなぐ

【啓発】

- 犬や猫のことを思って鳴ける人なら飼ってもいい
- 命に重いも軽いもないと思うので、大切にしてほしい

- 家族を捨てるのと同じであるということを知るべき
- 飼うには覚悟が必要（「飼うことで発生するリスク」をもっと考えさせる。近隣とのトラブル・食費・散歩など分かっているとしても難しいことを押さえておく）
- ペットを飼う上でのルールを厳しく決める
- 殺処分以外の方法はないのか、誰も傷付けずに命を守れないのか考える。捨てられたペットが最終的にどのようなことになるか？や、殺処分の実態（殺処分数や殺される犬や猫の様子や、殺処分を行わなければならない獣医さんの様子等）を広く世の人に知ってもらおう（ポスター・ポスティング・インターネット・新聞・TV（CM）等のメディアを使う、実際にペットが殺される部屋に入る体験をする、VRシステムで多くの人が体験できるようにする）
- 「ペットの日」を制定し、ペットの命を改めて見直して一つの命をあずかる大切さを知ってもらおう。
- 学校の授業で、必ず、殺処分のテーマを取り扱う
- ペットを捨てた者に実際に殺処分を体験させる（ガス室に入れて、犬や猫の気持ちを理解してもらう）
- 前島さんの活動のように、ペットの命の大切さ（尊さ）（人間と同様に大切であるということ）を多くの人（日本だけでなく世界中に）に理解してもらうための広報活動を行う（広報活動は関係機関だけでなく賛同する人みんなで行う）
- 飼う前に、最後まで飼い切ることができるか（食事、散歩、生活場所等の環境）等をしっかり考える（飼い主は、強い責任感とペットへの愛情が必要）（軽い気持ちでペットを飼わない）（犬や猫を恋人だと思うぐらいに愛する覚悟で買うべき）。
- ペットの命を物のように扱うなら最初からペットを飼わない
- 希望者に、期限を決めて、保護されている犬や猫を飼ってもらい、命の大切さを知ってもらったりそのまま、ひきとってもらえる機会を増やしたりできる
- ペットは家族同様に扱うべきであることを啓発する
- 飼い方に関する相談窓口を設け、犬や猫との楽しかったときの思い出をよみがえらせる
- 人間と同じように犬や猫は生きていることに気付いてもらう
- （いう事を聞かないのでかわいくなかったということに対して）ちゃんとしつけをしないと犬や猫もいらいらするので、人間（子供）と同じように厳しくしつけないと言うことは聞かないので、嫌でも（しつけを）するしかない
- 実際に施設からペットをひきとった飼主さんから、引き取ってよかったことなどを聞く（広める）
- 有名ユーチューバー（影響力があるので）が、殺処分の実態についてユーチューブにアップする
- この獣医（殺処分の実行者）さんの気持ちをみんなに知ってもらおう
- この問題をテーマにして文化祭など劇をする
- ペットのかわいい動画を全国の人に見せる

【その他】

- 保護した犬を盲導犬や介助犬などの役に立つ犬にして活躍させる
- 保護犬を訓練し、ここにいる犬や猫はすごいと思ってもらい、興味を持ってもらいひきとってもらう
- 生類憐みの令のようなものをもう一度作る
- 動物保護のボランティアをする
- ペットショップで犬や猫を売る数の制限を定める
- ペットの気持ちを分かる機械を開発する
- ペット（犬や猫）の良さを伝え、家族のように気が利くように育てる
- 年をとっている犬や猫がいても見捨てず、最後まで、犬生、猫生を楽しくさせてあげる。
- もし、病気になっても最後まで面倒を見る。めんどうだからといって捨てない
- 自分のことをちゃんとできない人は、犬を飼わない
- 犬や猫は人間のために生まれてきてない
- 捨てるのであれば、自分のペットであった動物が最後、苦しんで死んでいく姿を見てほしい